

第 17 回 HESD フォーラム開催案内（第 3 報）



第 17 回 HESD フォーラム

サステナビリティ研究会／日本・ベトナム国際シンポジウム 同日開催

9月23日(祝・月) 9:50 - 17:00
フォーラム後に交流会を開催します

参加費
無料

展示
募集中

場所 千葉商科大学市川キャンパス 1 号館
〒272-8512
千葉県市川市国府台 1-3-1

プログラム等の詳細は
WEB サイトへ▶

<https://www.cuc.ac.jp/insthub/symposium/2024/data304.html>



主催 HESD フォーラム (代表 徳島大学教授 三好徳和)
第17回HESDフォーラム実行委員会事務局 ESD-J 鈴木、横田
電話: 03-5834-2061/090-4594-9694 Eメール: jmskyoku@read-j.org
メール送付の際はタイトルを「HESD フォーラム関係者」としてください。

共催 千葉商科大学総合研究センターサステナビリティ研究所
ポスターセッション問い合わせ先: cuc-institute@cuc.ac.jp
千葉商科大学総合研究センター

参加方法 一般参加登録

<https://forms.gle/NVikTQ1dDo5b9cMe6>



ポスターセッション登録

<https://forms.office.com/r/LG8PQmrDUE>



口頭報告登録

<https://forms.gle/7WiaQ3DyMEjH49IA>



ポスターセッション、
口頭報告のどちらにも
参加する場合は両方の
フォーラムから登録して
ください。

※ポスターセッション、口頭報告をご希望の方は 8 月 31 日 (土) まで、それ以外の方は 9 月 13 日 (金) までにお申込みください。

ポスターセッション及び口頭報告の登録は終了しました。

第 17 回 HESD フォーラムへの参加申し込みは、上記 QR コードまたは下記 URL から 9 月 13 日 (金) までに
お願いいたします。

<https://forms.gle/NVikTQ1dDo5b9cMe6>

なお、期日までに参加登録できなかった人については、当日登録を受け付けます。

●千葉商科大学へのアクセス

- HESD フォーラムに際しては、バスに乗り、和洋女子大学前で下車、正門から入構することをお奨めします。

[illegible]

また、一般参加者の昼食、夕刻の交流会は隣の The University Dining で行われます。

- 2

HESD フォーラムのプログラム概要

時間	セッション	教室	備考
09:20～09:50	受付	1 階 1101 教室	ハイブリッド可
09:50～10:00	開催挨拶 三好徳和 HESD フォーラム会長 寺野隆雄 千葉商科大学総合研究 センター長	同上	同上
10:00～10:30	基調講演「自然エネルギー100%大学 への道」原科幸彦千葉商科大学学長	同上	同上
10:35～11:35	サステナビリティ研究所ジョイントイベント 「実業界の SDGs 事情および千葉商 科大学の ESD 実践」	同上	同上
11:40～12:10	サステナビリティ研究所主催国際シンポ ジウムジョイント企画	同上	同上
12:15～13:15	HESD フォーラム総会	同上	同上
12:15～13:15	一般参加者昼食	The University Dining	
13:20～14:40	ポスターセッション	2 階 1210 教室 1211 教室	
14:45～15:45	研究・事例発表第 1 セッション (口頭発表)	1 階 1101 教室 2 階 1209 教室	ハイブリッド可
15:50～16:50	研究・事例発表第 2 セッション (口頭発表)	1 階 1101 教室 2 階 1209 教室	ハイブリッド可
16:55～17:00	閉会挨拶 大島順子 HESD フォーラム副会長 猪熊ひろか千葉商科大学サステナビリ ティ研究所長	1 階 1101 教室	ハイブリッド可
17:15～18:45	交流会	The University Dining	



The University Dining



1 号館 1 階 1101 教室

HESD フォーラム詳細プログラム

10:00～10:30 基調講演「自然エネルギー100%大学への道」

講演者プロフィール：原科幸彦千葉商科大学学長

1946年、静岡市生まれ。千葉商科大学学長。東京工業大学理工学部卒業（1969）、同・大学院博士課程修了（工学博士）、国立公害研究所（現・国立環境研究所）主任研究員、マサチューセッツ工科大学客員研究員、東京工業大学助教授・教授などを経て同大名誉教授。2012年に本学政策情報学部教授に就任、2014年から政策情報学部長、2017年3月から現職。放送大学でも長期間講義を担当しており、国際影響評価学会（IAIA）会長、日本計画行政学会会長なども歴任。これまでIAIA ローズハーマン賞、日本計画行政学会論文賞、環境科学会学術賞、国際協力機構理事長賞など多くの賞を受賞している。専門は社会工学で、参加と合意形成研究、環境アセスメントの第一人者として国内外で広く知られている。

10:35～11:35 サステナビリティ研究所ジョイントイベント「実業界の SDGs 事情および千葉商科大学のESD 実践」

主催：千葉商科大学サステナビリティ研究所

進行役：猪熊ひろか 千葉商科大学教授

報告者：笹谷秀光 千葉商科大学サイエンスアカデミー特別客員教授

使河原隆行 千葉商科大学教授

齊藤紀子 千葉商科大学准教授

11:40～12:10 サステナビリティ研究所主催国際シンポジウムジョイント企画

※発表内容の日本語訳を受付で事前配布

INFLUENCE OF CHANNEL COMMUNICATION ON PURCHASING SUSTAINABLE FASHION IN VIETNAMESE MARKET

Session Chair: Nguyen Thi Thanh Thuy (Chiba University of Commerce: CUC)

Presenters: Dao Cam Thuy, Do Thi Bich Ngoc, Vu Khanh Linh, Tran Quynh Anh, Bui Phuong Uyen (VNU University of Economics and Business, Hanoi)

Do Hoang Nhat Mai (University of East Anglia, United Kingdom)

Commentator: Ryohei Kageura

12:15～13:15 HESD フォーラム総会（1101 教室） /

一般参加者昼食（The University Dining 使用可）

13:20～14:40 ポスターセッション（2 階 1210 教室／1211 教室）

ポスターセッション発表・展示内容(13:20～14:40)

発表タイトルおよび展示内容	発表者
地元企業と共に新たな価値を創造する『価値創造プロジェクト』	田名慧資、小塚翔、芦田千佳、山田沙来、小林彩、池田莉奈、安納優希（千葉商科大学附属高校 商業科ビジネス）

	スコース 価値創造プロジェクト)
ポスターによる SONE の活動紹介 (SONE について、断熱ワークショップなど)	渡辺美月、篠原遥、盛川美優 (千葉商科大学 学生団体 SONE)
CUC エシカル学生クラブのエシカル消費啓発活動の紹介	滝澤淳浩、櫻井理智、桂川幸二郎、佐藤望琴、眞田旺典、清水葵 (千葉商科大学 CUC エシカル学生クラブ)
CUC100 ワイン・プロジェクト、養蜂事業国府台 bee Garden での活動紹介	荒谷佳樹、石川智悠、徳島成、長谷川愛莉、荒杏樹、金子実樹 (CUC100 ワイン・プロジェクト・千葉商科大学)
ど根性栽培ブルーベリーによる地域活性化への参画—セクター間協働の発展プロセスモデルの研究として	齊藤紀子、長井克将、柄澤真悠子、鈴木太晴 (千葉商科大学人間社会学部)
千葉県地域活性化プロジェクト	吉田昌馬、中島雄哉、伊計智子、山口実優 (千葉商科大学人間社会学部・勅使河原ゼミ)
福島空港地域の活性化——商品を開発した後の取り組みについて	猪熊ひろか、岩澤杏優、佐藤望琴、赤津万理捺、鶴田友花、前田楓怜 (千葉商科大学学長プロジェクト 福島 S-HART 事業)

(注)一部のセッションで試飲、販売等を行います。

14:45～15:45 研究・事例発表第1セッション

第1会場 (1階 1101教室)

発表名	発表者	概要
ユネスコ「人間と生物圏 (MAB)」計画を活用した HESD	横浜国立大学総合学術高等研究院 松田裕之	横浜国大ユネスコチェア「生物圏保存地域を活用した持続可能な開発のための教育」(EBRoSS)では、学部生向け副専攻プログラム「MAB 計画とSDGs」のほか、大学院生・社会人向けの認定制度を設けている。座学の講義でどこまで ESD を理解できるか、実習との相乗効果の実態を報告する。
北陸発 ESD 実践交流のためのオンラインコミュニティ構築	金沢大学 (北陸 ESD 推進コンソーシアム) 加藤隆弘	北陸 ESD 推進コンソーシアムではこの 6 年間、オンラインを活用し、北陸地区での地域や学校での多様な ESD 実践を基にした動画教材の作成と蓄積、公開をおこない、その実践構想から取り纏めの過程で役立つ研修、実践交流・支援コミュニティの構築に取り組んできた。本発表では、この過程と今後の展望、課題について概括する。

SDGs 探究への支援を通じた高校生・教職大学院生の双方向の学び	大分大学 河野晋也	SDGs 探究を行う高校生に、発表者と教職大学院学生が支援を行った。高校生は、大学院生から「問いの設定」「調べ方やフィールドワークに関する助言」「成果のまとめ方」など探究の手法を学び、大学院生は、支援を通して社会と自己の変容を目的とした ESD の実践の在り方について考察するという、双方向の学びが生まれた。
----------------------------------	-----------	--

第2会場（2階1209教室）

発表名	発表者	概要
大学・大学院教育の変化の兆し－外国語を用いた能力の習得について－	国士舘大学経営学部 堀口朋亨	AI の急速な発展は、学校教育における教授法や受講者の学習方法に大きな変化を与える兆しがある。AI が目に見えて受講生の学習方法に大きな変化をもたらしているのは、外国語学習である。文科省が幼稚園・小学校・中学校・高校の学習指導要領に「持続可能な社会の創り手」という文言を加えており、英語も持続可能な社会の創り手になることを目的を達成するための一手段であるという見方が浸透していくことが見込まれる。この目的を達成するのが重視されるようになれば、従来のような、道具に依存しない個人の英語能力の育成にこだわる理由が弱くなることだろう。AI 活用を前提にした英語教育がとりわけ大学においては今後ますます浸透していくはずだ。このような観点からの問題点と可能性について論じる。
大学におけるフィールドワーク型授業の実践と課題	成蹊大学 小田宏信	成蹊大学経済学部では 2020 年度のカリキュラム改正で「サステナビリティ研究科目群」を設け、その中にフィールドワークを含む PBL 科目である「実践ゼミナール（2 年次配当）」を開設した。本報告では、同科目の運用開始より 4 年間の実践事例とその過程で浮かび上がってきた課題についてご紹介したい。
インカレ SDGs プロジェクトによる異世代・多地域の学び合い	環境自治体会議環境政策研究所 中口毅博	大学・NPO・企業・行政が連携して行っている中学・高校の課題研究支援や、異なる学校の中高生・大学生が自分の興味に応じて参加できる現地見学・社会活動などのプログラムを提供する

		「インカレ SDGs プロジェクト」の実施状況と効果について報告する。
--	--	-------------------------------------

15:45～16:45 研究・事例発表第2セッション

第1会場（1階1101教室）

発表名	発表者	概要
外国にルーツのある生徒の Wellbeing を高めるために ～ 高校における日本語支援と居場所づくり ～	埼玉県立戸田翔陽高校 金田 智	現任校には日本語が不十分な生徒が多く在籍しており、高校卒業が困難になる生徒がいる。彼らの卒業や進路実現、そしてその先の生活のために、本校では①多文化共生室の開放、②オンライン日本語教室、③学校設定科目「日本語」の設置、④多文化共生イベントなどを通して、彼らの日本語支援と居場所づくりを行っている。特に学校設定科目「日本語」は、日本語を授業として単位認定できるようにしたことで、彼らの学びが直接高校卒業に結びつく。そして、1年生から毎年「日本語」の授業を選択できるようにしたことで、入学から卒業まで継続して日本語を学べるようになった。外国ルーツの生徒の居場所が増えて、明らかに彼らの笑顔が増えている。
琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会の活動について	琉球大学エコロジカル・キャンパス学生委員会 竹内菜々	SDGs 探究を行う高校生に、発表者と教職大学院学生が支援を行った。高校生は、大学院生から「問いの設定」「調べ方やフィールドワークに関する助言」「成果のまとめ方」など探究の手法を学び、大学院生は、支援を通して社会と自己の変容を目的とした ESD の実践の在り方について考察するという、双方向の学びが生まれた。
岩手大学環境マネジメント学生委員会の活動	国立大学法人岩手大学 中島清隆、岩手大学環境マネジメント学生委員会 鈴木花・藤井寧々	岩手大学の環境マネジメントシステム運営に学生の立場から参画している岩手大学環境マネジメント学生委員会の活動、特に前回の HESD フォーラム以降の1年間の活動を発表する。

第2会場（2階1209教室）

発表名	発表者	概要
琉球大学における SDGs・ESD 推進（仮題）	琉球大学 大島順子	2019年の学長宣言、2022年2月のSDGs推進室の設置等により、4つのワーキンググループを中心に、カーボンニュートラルを含むSDGsの推進に取り組んできた琉球大学の取り組みを紹介する。

参考 1：千葉商科大学 SDGs 見学ツアー概要

●千葉商科大学サステナビリティ研究所は、研究・事例発表第 1 セッション、第 2 セッションの時間に、千葉商科大学の SDGs に対する具体的な取り組みに触れていただくよう、キャンパス内の太陽光発電設備、養蜂場、断熱を施した教室、ワイン用ブドウ畑を見学するツアーを企画します。（1 回約 1 時間以内）。

●1 回の携行人員は 20 名程度を想定していますが、申し込み状況に応じて柔軟に対応します。

●1 回目：14:45～15:45、2 回目：15:50～16:50

案内：和田義人、荒谷佳樹、石川智悠、徳島成、長谷川愛莉、荒杏樹、金子実樹（千葉商科大学 ワインプロジェクト・国府台 Bee Garden 学生チーム）、渡辺美月、篠原遥、盛川美優（学生団体 SONE）、猪熊ひろか（サステナビリティ研究所長）

① 太陽光発電設備

千葉商科大学は地球温暖化対策等に貢献するため、日本初の「自然エネルギー100%大学」をめざす取り組みを進めています。このツアーでは、1 号館の屋上に設置されている太陽光発電設備を見学していただきます。



1 号館屋上の太陽光パネル



千葉商科大学所有のメガソーラー

② 養蜂場

千葉商科大学では、学生たちが大学の 1 号館 3 階テラスで都市養蜂を行っています。このツアーでは、養蜂場の見学をします。2023 年には、CUC100 ワイン・プロジェクトの学生が養蜂し採取した「国府台 bee Garden」はちみつが、「全国学生養蜂サミット 2023」はちみつ品評部門で、最優秀賞を受賞しました。



説明用の看板



みつばちの巣箱

③ 断熱を施した教室

千葉商科大学の学生団体 SONE が企画し、他大学の学生にも呼びかけて施工した断熱教室を見学します。既存の窓の内側にポリカーボネート 2 枚を使った木枠の内窓を設置し、壁には 5 cm の断熱材を入れて平板を打ち付けました。建物内部の熱を外に逃がさず夏は冷房効果、冬は暖房効果を高めます。



断熱教室の説明用パネル



二重窓と断熱材を貼り付けた壁

④ ワイン用ブドウ畑

CUC100 ワイン・プロジェクトでは、2028 年の創立 100 周年に向けて市川市国府台産 100%の"CUC オリジナル ワイン"の醸造をめざし、2019 年 1 月から活動をしています。プロジェクトは、ソーラーシェアリングを導入し、圃場内の外灯やログハウス、害獣対策の電気柵などの電力をまかない、農業の未来とエネルギー資源について考えます。



説明用のパネル



キャンパス内のブドウ畑



畑の上部に設置した太陽光パネル

参考 2 : International Symposium on Sustainable Development and ESD

Organizer: Research Center for Sustainability, Chiba University of Commerce

Date: September 23, 2024

Place: Chiba University of Commerce, Building 1, Room 1103

(the room 1101 for the morning session)

Schedule:

11:40-12:10 Dao Cam Thuy, Do Thi Bich Ngoc, Vu Khanh Linh, Tran Quynh Anh, Bui Phuong Uyen (VNU University of Economics and Business), Do Hoang Nhat Mai (University of East Anglia, United Kingdom),

INFLUENCE OF CHANNEL COMMUNICATION ON PURCHASING SUSTAINABLE FASHION IN VIETNAMESE MARKET, (Joint session with HESD Forum, Room 1101) **On-site**

12:10-12:55 Lunch Time

Session 1 (Room 1103), Starting Time: 12:55

12:55-13:00 Opening Remarks

13:00-13:30 Do Hoang Phuong, Nguyen Phuong Linh, Tran Ha Vy, Pham Thi Mai Chi (VNU University of Economics and Business), Do Nguyet Minh (Thuy Loi University),

THE DETERMINANTS OF ORGANIC FOOD CONSUMPTION OF YOUNG PEOPLE: THEORETICAL RESEARCH ON VIETNAMESE STUDENTS **Online**

13:30-14:00 Nguyen Duc Hoa Cuong (Hanoi University),

A case study on sustainable tourism and its contributions to SDGs in Dien Bien Province, Viet Nam **Online**

14:00-14:30 Nguyen Anh Tru and Tran Huu Cuong (Vietnam National University of Agriculture),

The Impact of Globalization, Gender Development and Exports on Economic Growth: An Empirical Study in Viet Nam **Online**

14:30-14:50 Ryohei Kageura (Chiba University of Commerce),

Japanese Women's Reproductive Rights and Abortion from the Capability Approach Perspective **On-site**

14:50-14:55 Pause

Session 2 (Room 1103), Starting Time: 14:55

14:55-15:25 Dao Thi Ha Anh, Bui Thi Quyen, Dinh Phuong Hoa (VNU University of Economics and Business),

Project-based learning and technology: A sustainable education model for students **On-site**

15:25-15:55 Vu Thi Thanh Binh, Nguyen Thi Hong Thuy, Dang Thu Hang (VNU University of Economics and Business),

ENVIRONMENTAL EDUCATION: EVIDENCE FROM HIGHER EDUCATIONS IN VIETNAM
On-site

15:55-16:25 Le Quang Minh (VNU University of Economics and Business),

The impact of ODA on the green economy in ASEAN 5 countries **On-site**

16:25-16:45 Vu Thanh Huong, Hoang Thi Nguyet Ha, Nguyen Thai Khanh An, Luong Thi Hong Duyen, Dao Nguyen Phuong, Nguyen Thu Ha (VNU University of Economics and Business),

Impacts of trade protective measures on Vietnam's agricultural exports **On-site**

16:45-16:50 Closing Remarks

16:50-17:15 Pause

17:15-18:45